

科学の甲子園 概要

1. 科学の甲子園

「科学の甲子園」とは、高等学校（中等教育学校後期課程、高等専門学校を含む）の生徒チームを対象として、理科・数学・情報における複数分野の競技を行うもの。

全国大会に出場するチームは、各都道府県より1チーム1校単位で、1チームは6人以上8人以内の高校1、2学年の生徒で構成される。

競技は複数の筆記競技と実技競技からなり、各チームが競技ごとに定められた複数人からなる競技チームを構成し、当該競技チームが問題等を分担、相談するなど協力して成果を創出し、その成果を競い合う形式となっている。

独立行政法人科学技術振興機構が平成23年度に創設し、第1回が平成24年3月24日～26日に、兵庫県西宮市（兵庫県立総合体育館）で開催された。なお、第1回の優勝校は埼玉県立浦和高校、準優勝は滋賀県立膳所高校。第2回が平成25年3月に開催される予定であり（場所は同じく兵庫県西宮市）、現在、全国で都道府県予選等が行われている。

また、平成25年度から中学生版の「科学の甲子園」が開催される予定。中学1～2年を対象。中学生版は、都道府県代表の5人前後のチームで競う形式で、学校単位の参加のほか、都道府県教育委員会の判断で、個人単位で選抜して代表チームをつくることもできるとのことである。平成25年度の冬休みか春休みに東京で開催される予定となっている。

2. その他の科学関係の競技会等

①国際科学オリンピック

世界中の中等教育課程にある生徒（日本では主に高校生に相当）を対象にした科学技術に関する国際的なコンテストであり、「知のオリンピック」とも呼ばれている。

1959年に、ルーマニアが当時のハンガリー、ブルガリア、ポーランド、チェコスロバキア、東ドイツ、ソ連を招待し、子どもたちの数学オリンピックを開催したのがはじまりで、現在では科学各分野（数学、物理、化学、情報、生物学、地理、地学）のオリンピックが開催されている。

わが国では、国際大会出場のための国内大会として、「日本数学オリンピック」「全国物理コンテスト」「化学グランプリ」「日本情報オリンピック」「日本生物学オリンピック」「科学地理オリンピック」「日本地学オリンピック」が開催されている。科学の甲子園より歴史があるが、科学の甲子園が学校単位のチーム競技であるのに対して、科学オリンピックは個人単位の出場が基本。毎年、成績上位者20名前後が国際大会に参加している。

②都道府県の科学オリンピック

富山県、広島県、和歌山県などで、都道府県単位の科学オリンピックが開催されている。「科学の甲子園」に合わせて平成23年度前後にスタートしているところが多く、「科学の甲子園」の都道府

県予選を兼ねている場合もある。

科学に関心を持つ高校生に、より興味を深め、さらに意欲的に学習に取り組んでもらいたいという趣旨で、筆記や実験等の競技を行い、上位入賞者を表彰するというスタイルが多い。また、合わせて科学セミナーなどを開催し、先端科学の現場等に触れる機会を提供するといった取り組みも行われている。

対象は高校生が多いが、富山県の「とやま科学オリンピック」では高校部門に加えて小中学校部門も設けられている。

※市区町村単位では、科学の自由研究のコンクールなどが行われている事例はあるが、競技形式でコンクール等が行われている事例はほとんどない（今のところ発見できず）